

# 復興を歩む

vol.3

## 村内拠点の造成工事

村内で、さまざまな復興事業が、本格的に動き出しています。深谷地区に整備される復興拠点においても、太陽光発電施設建設予定地の造成工事が始まりました。

その造成工事が進む現地で、6月3日に「飯館村復興拠点深谷地区整備事業に関わる相馬福島道路からの発生土砂受入れ式」が行われました。

この「発生土砂の受入れ」とは、復興拠点の整備にあたり、国土交通省福島河川国道事務所から、相馬福島道路工事で発生する土砂の提供を受けるものです。広大な予定地の造成には、大量の土砂が必要となるため、この提供と受け入れは、村の事業費の大幅な削減につながります。

事業開始を記念して行われた式には、村と福島河川国道事務所の関係者や事業者、事業用地協力者などが

出席しました。菅野村長は、「復興に向けて前向きに、一つひとつハードルを越えていくことが大切。関係者や地元との協力で、新たな村づくりが、まさに今日始まります」とあいさつ。また、福島河川国道事務所の永尾慎一郎所長もあいさつし、「飯館村の復興の中心となる事業において、お役に立てることを大変喜ばしく思います」と述べました。

式の終わりには、ダンプカーによる土砂の搬入や、ブルドーザーによる敷均し（しきならし）が行われ、列席者が事業のスタートを見届けました。事業用地協力者の一人で、式に出席していた原田健治さん（深谷）も、関係者と共に重機が作業するようすを見守り、「この式を行っている、まさにこの場所が、自分の農地だったんだよ」と話していました。

今年度は12月までの期間に、約8万立方メートルの土砂が搬入される予定。また、太陽光発電施設も、この冬の設置完了を目指しています。



原田健治さん・キイさん夫妻

式に出席した健治さんを自宅で迎えたキイさん。「先祖代々の田んぼを復興拠点にと聞き、初めはショックでした。けれど皆一人では生きられないし、村に協力はしなくてはと。今は、どんな風になっていくかを見守っています」

3台のダンプカーが運び入れた土砂を平らに敷き均すブルドーザー